

非経験者による日系人強制収容の記憶継承

サンノゼ日系アメリカ人博物館を事例に

松永千紗（総合研究大学院大学地域文化専攻）

本発表は、サンノゼ日系アメリカ人博物館を事例に、多世代・多人種の非経験者展示解説員による日系人強制収容の記憶の継承と語り継ぎを分析し、博物館展示における意義について検討するものである。

サンノゼ日系アメリカ人博物館は、1987年の設立以来、サンノゼ地域の日系アメリカ人（以下、日系人）自身の手による日系人の歴史展示を提供してきた。館内にはドーセント(docent)と呼ばれる展示解説員（以下、ドーセント）がおり、館内ツアーが提供されている。サンノゼ日系博物館におけるドーセントは、日本における「語り部」のような役割も担っており、展示されたモノに関する語りも、解説と同時に提供する。特に80代以上の強制収容経験者は、展示から想起した自らの記憶を語る。しかし、ドーセントの多くは、強制収容の非経験者である。具体的には、10代から90代、二世から四世、日系人から中国系、ユダヤ系、メキシコ系、日本人などが在籍している。本発表では、こうした多世代・多人種の非経験者ドーセントたちが企画するツアーにおける記憶の継承と語り継ぎを分析する。

第二次世界大戦に関係する記憶の保存・継承は、経験者の高齢化に伴い、全世界において喫緊の課題となっている。経験者が減少する中で、いかに非経験者が記憶を継承し、語り継いでいくのか。博物館・資料館においても、独自に試行錯誤が行われている。例えば、日本においても、広島市被曝体験伝承者養成事業（安斎 2016）やヒロシマピースボランティアの活動、ひめゆり平和祈念資料館の事例（君塚 2017）では、非経験者による戦争記憶の継承が取り組まれている。サンノゼ日系アメリカ人博物館においては、展示解説員であるドーセントがその主体であり、経験者から収集された記憶の語りは、ドーセント自身の取捨選択と解釈、またドーセント間での共有を経て、来館者にツアーとして提供されることで、語り継がれていく。

非経験者ドーセントがツアーに用いる記憶は、様々な場所から収集される。数少ない強制収容経験者ドーセントから直接聞き取る以外にも、日系人・非日系人を問わない家族、友人、知人の語りも収集され、選択され、解釈された上で、ツアーにおいて語られる。特に強制収容経験者がツアーに参加した際、展示物を前にして偶発的に語られる記憶は、10代から20代の若い世代かつ非日系人ドーセントにとって、重要な情報源となっていた。こうした多様な人々の語りは、ドーセントを通して、個人的な記憶から、博物館で語り継

がれる記憶となるのである。

非経験者ドーセントによる記憶の継承と語り継ぎにおいて、本発表で注目するのは、非経験者ドーセントが継承する記憶の中に、常設展示によって提示される博物館の言説とは、必ずしも一致しない内容が含まれていた点である。具体的には、野球などの遊びや好きだった食事、柵の外で探検したことなど、ポジティブな収容生活の記憶も含めて、経験者から非経験者ドーセントに語られているのである。また、非経験者ドーセントは、経験者から直接聞く語りに加え、博物館主催のイベントで報告された、収容所の中で娯楽であった園芸や子どもたちの遊びに関する考古学的な解説も、収容所生活の記憶として取り入れていた。

博物館における日系アメリカ人の歴史展示は、日系人強制収容という悲惨な過去を乗り越え是正した日系人の歴史から、来館者に学びを提供するという性質から、ともすれば「特定の人々が集合的記憶で武装した神殿」（能登路 1999）になりかねない。それに対して、非経験者ドーセントたちは、常設展示が強調する「被抑圧的で悲惨な収容生活」に限らない、また「特定の誰か」に限らない記憶を継承し、語り継ぐことで、展示に多声性を付与したということができる。

本稿では、報告者がサンノゼ日系アメリカ人博物館において、見習いドーセントとして参与することで得られた事例を取り上げる。ドーセントたちはどのように経験者から語りを収集し、解釈し、ツアーにおいて語り継ぐのか。また、ドーセント間での記憶の共有や情報収集、学習はいかに行われるのか。具体的な事例の分析を通して、博物館における多世代・多人種の非経験者展示解説員による記憶の継承と語り継ぎの実態、また博物館展示における意義および可能性を論じたい。

【参考文献】

安斎聡子 2016 「他者の記憶を語る——広島市被爆者体験伝承者養成事業とその『語り継ぎ』」『青山社会情報研究』8:27-45。

君塚仁彦 2017 「博物館における『対話』による記憶『継承』活動の意義——ひめゆり平和祈念資料館の取り組みを中心に」『東京学芸大学紀要 総合教育化学系』68(1):89-99。

能登路雅子 1999 「歴史展示をめぐる多文化ポリテクス」『多文化主義のアメリカ——揺らぐナショナル/アイデンティティ』油井大三郎、遠藤泰生編、pp. 187-208、東京大学出版会。

キーワード 日系アメリカ人、博物館、展示解説員、記憶継承、語り継ぎ